

11・4日比谷野音へ!

2012年9月12日
No.52

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/

全学連(齋藤郁真委員長) 書記局通信

全学連大会参加者からの感想

●福島大3年生

全学連大会に参加して感じたことは、今の社会を変えたいという、学生の熱い思いでした。誰もが現在の大学や社会のあり方に疑問や不満を感じ、世の中を変化させたいと思っていることを強く感じました。私自身、今の大学のあり方に疑問を感じずにはられません。反原発を主張して自ら行動を起こそうとする学生を弾圧し、原発に関する自由な議論を許さない大学は、もはや学問の最高府とは呼べないと思います。今こそ学生は団結し立ちあがる時です。資本家打倒を目指す労働者と連帯し、大学を学生の手に取り戻すとともに、大学から今の腐った社会を変えていきましょう。

●法政大3年生

想像より発言者の数が多くて驚きました。基地問題、大学内の規制など処々の社会問題に対する外側へのアプローチが相変わらず盛んでした。一方で主催である全学連自体に対する疑問・改善・要求という内側へのアプローチも盛んに行われました。福島のお母さんの話も印象深いものでした。事実や数字だけを並べたり、抽象的な言葉に頼るだけでは政治や社会問題に現実味を与えられないのだなと感じました。

人間や人間が関わる問題を理解する上で一番大切なのは人間サイズの視野なのだと思います。

●岡山大4年生

魂ぶつける議論をしよう! ということで開かれた今回の全学連大会は初参加者を中心に、熱い議論が行われました。フクシマの怒りとどう連帯するか、という課題を中心に、自分のキャンパスでどう闘うか、が問われました。岡大でもこの間の闘いで、御用学者を呼んだシンポジウムが開かれ、岡大とJAEAとの提携が明らかになりました。シンポジウム中止の申し入れに対し、主催者は、賛成反対ではない「中立」の立場なんだということを主張していま



2012年全学連執行部
左から洞口朋子さん(法大)、坂野陽平君(上智大)、齋藤郁真君(法大)、鈴木研也君(広大)、大森靖之君(京大)、石田真弓(東北大)

したが、JAEAからカネをもらい、御用学者を呼んで、3.11の反省もなく「中立」などありません!ここを徹底的に暴露し、3.11後の情勢のなか、自分たちのキャンパスを、自分たちの生き方をどうするのか、魂ぶつける議論を自分のキャンパスでも展開したいと思います。そこに、原発問題を「領土」問題や総選挙情勢へと流しこもうとする思惑をはねのけていく力があると信じています。今までの暮らしはできない、そういうフクシマの怒りと連帯して、今のままの岡大ではフクシマと本当の意味で連帯できない、という思いで官邸前100万人行動の実現に向けて頑張っていきたいと思っています。

●東北大1年生

自分は全学連大会に初めて参加させていただきました。全学連大会には全国の大学生が集うということで、楽しみにしていた部分もありました。全学連大会は熱い大会であったと思います。全国の大学での運動の状況を聞くだけでなく、それぞれが抱く社会問題についての意見についても聞くことができました。また、全国の学生が集まるとはいえ、自分の想像より多くの大学から学生が集まったことにも驚きました。全国からの学生による状況報告やそれへの熱い意見によって大会は白熱していたと思います。

これらの経験を踏まえ、これからも社会矛盾について思考し、行動していきたいと思っています。

10・19法大包囲デモ

10月19日(金) 12:40

法政大学市ヶ谷キャンパス正門前集合

●首都圏大学4年生

例年よりも討論の時間が増えたという点で、全国の学生にとって、今年はいよいよ有益な大会になったとおもいます。とくに、新しく参加される学生も積極的に発言できる場であったという点が重要だと思います。宿での交流会でも、新規参加の学生と深く議論を進めることができました。リピーターは確実に増えると確信しています。

しかし、大会では、まだ討論といっても、決意表明や戦況報告としての性質が大きい発言が大半であり、「そもそも」的な疑問提起が少なかったように思われます。今後は原発賛成派や右派学生などでも参加できるくらい、たくさんの方が議論・一致・連帯していけるような場に飛躍させていきたいと思えます。

巨万の学生が全学連に結集してくれる時代を創りだしていきましょう。

●富山大3年生

東日本大震災<3・11>発生から1年半が経過しようとするなかで2012年の全学連大会が開催されました。富山大学からも多くの学生が参加しました。先月の8・6ヒロシマ大行動に参加していた学生も参加し、広島の大行動から刺激を受けてモチベーションが高まっているなかで、全国の学生と交流できることを楽しみにして今大会に臨みました。さて、今大会の重要な目的の一つである「福島への怒りとより強固につながり、反原発運動を拡大させる」について私なりに総括してみたいと思えます。今大会は「子どもたちを放射能から守る福島ネットワーク」代表の佐藤幸子さんのお話を聴いてのスタートとなった。佐藤幸子さんのお話で、私が最も印象に残ったのが大学（教育）のありかたについてです。人間が生きていくうえで最も大切にするべきは「いのち」であることを教えず、競争に勝つことや金儲けの方法ばかりを教えていること、相手を思いやる気持ちのゆとりを失わせる問題が深刻化していることを突きつけられました。

私たち学生は社会を根底からひっくり返し変革する力を持っています。変革する力を付けるには大学を「人類発生

の歴史から学び直し真実を明らかにする学びの場」として復活させなければなりません。

法政大学の無罪勝利、京都大学の同学生会再建、福島大学のキャンパス内の闘いなど全国各地の大学で学生が決起して闘っています。富山大学も秋の決戦をもって学内で闘う準備を着々と進めています。大学当局との力関係をひっくり返すには現在ともに闘っている学生との団結をさらに固くすること、学内の学生をオルグして組織を拡大させることが求められます。腐敗した新自由主義大学にうんざりしている学生に対して、私たちは「夢」を語りましょう！学生が大学の主体になればキャンパスライフはもっと楽しくなることを伝えましょう！学生ひとりひとりの怒り、不満、悩みにとことん向き合っていきましょう！

●法大3年生

今回の大会はより学生らしさが出てきた大会になったと思う。「そもそもの議論」が出され、全学連の原初を問うマジ論議を作り出したのが初参加者を中心とする陣形であったことも今回の大会の特徴となり、より大衆的なマジ論議の場に出来たことが、今年度以降の全学連の大きな飛躍であると思う。

その一方で問題もある。それは一点、大衆的な信頼を取り戻すための行動の拡散に尽きると思う。我々は既に「信頼を行動によって作る」行動方針を確立しているし、行動そのものは問題ない。去年、京都大学の仲間の行動（原子炉実験所の行動）が社会的に大きな反響を、それも我らの追い風になるような反響を呼んだ。このような闘争を常に広く拡散できるような広い顔を持つ必要があるのではないだろうか。困者には黙って手を差し伸べ、正々堂々と、愚直なほどに真っ直ぐに突き進みたい。

正に、今は亡き部落の闘士たちが残していったこの檄を改めて見返したい。

吾等、一致団結死をちかい、堂々正義の道行かん。われらを遮るものあらば断断固として破碎せよ！われらを阻むものあらば一刀両断あらんのみ！ 解放の道に斃れるは、われら若人の栄光なるぞ！

11・4全国労働者総決起集会

新自由主義と闘う労働組合の全国ネットワークを！
JR外注化阻止！ 反原発・反失業、野田倒せ！

◆11月4日(日) 正午～

◆東京・日比谷野外音楽堂にて

【主催】全日本建設運輸連帯労働組合・関西地区生コン支部、全国金属機械労働組合・港合同、国鉄千葉動力車労働組合、国鉄分割・民営化に反対し、1047名解雇撤回闘争を支援する全国運動

http://www.geocities.jp/nov_rally/

※右写真は、5950人が結集した昨年11月6日の全国労働者総決起集会

